

緊急通報システムの利用を検討されている皆さまへ

1. 緊急通報システムの目的

身体にいつもと違うような異変を感じたときや、突発的な事故などで、緊急に助けを求めたいが自分では連絡や通報が出来ないときに、緊急通報装置を用い、通報すると、通報を受信した大阪ガスセキュリティサービス株式会社の受信センターが、必要に応じて、協力員の訪問要請や消防局へ救急要請を行います。

このシステムにより、速やかな救助活動につながり、日常生活の安全確保を目的としています。

2. 緊急通報システムの流れ

① 急病や災害等により自ら救急要請(119 番通報)できないときに、緊急通報装置を用いて受信センターに通報してください(24 時間対応)。

② 通報を受けた受信センターが、緊急通報装置を通して状態を確認し、必要や要求に応じて、第 1 次協力員、第 2 次協力員に訪問要請又は消防局に救急要請を行います。

協力員が訪問した場合は、協力員が利用者の状態を受信センターに伝え、必要や要求に応じて、受信センターが消防局に救急要請します。

《通報方法》

固定型装置:「装置の緊急ボタン」又は「ペンダントのボタン」を押す。

携帯型装置:「装置の付属のストラップ」を引っ張り、「受信センターに電話」を押す。

3. 協力員について

緊急通報システムでは、協力員の方の協力は、欠くことのできない大切なものです。協力員に感謝するとともに、日頃から信頼関係を保つよう心がけてください。

《協力員の条件》

第 1 次協力員:15 分以内に駆けつけできる方(移動手段は問いません)

第 2 次協力員:30 分以内に駆けつけできる方(移動手段は問いません)

※協力員を 2 人用意できない場合、第 2 次協力員は不要。

4. 自宅の鍵について

協力員や救急隊が駆け付けた際に玄関の鍵が施錠されている場合、やむを得ず救助活動時に玄関ドアや窓等を破壊することがあり、修繕にかかる費用は自己負担となります。協力員に鍵の保管等を相談してください。

5. 緊急通報装置で使用する電話回線・通信回線について

【固定型装置を利用する場合】

固定型装置は、NTTアナログ回線で使用する場合に本来の機能を正常に発揮されますが、NTTアナログ回線以外の場合は、停電時に通報できない、緊急ボタンや相談ボタンが起動しない等、稀に緊急通報の不具合等により正常に利用できない場合があります。携帯電話や電話番号が「050」から始まる電話では緊急通報装置は設置できません。

なお、NTTアナログ回線以外の回線での利用を希望される場合は、別に承諾書の提出が必要です。

【携帯型装置を利用する場合】

携帯型装置は、通信会社の回線用いるため、自宅敷地内の電波状況や通信会社の通信障害等により、正常に利用できない場合があります。

なお、携帯型装置の利用を希望される場合は、別に承諾書の提出が必要です。

協力員となる皆さまへ

- 緊急通報システムの流れ

利用者が急病や災害等により自ら 119 番通報できないときに、緊急通報装置を用いて受信センターに通報すると、必要に応じ受信センターが協力員に訪問要請又は消防局に救急要請を行います。

- 協力員の役割

協力員は、このシステムの緊急事態における活動などでとても大切な役割が期待されています。

- ① 協力員の方は、相談センターから訪問要請があったときは、急いで利用者の家へかけつけて、相手の状況を確認してください。

鍵を預かっている場合は忘れずに持参してください。

- ② 利用者の状況が緊急事態と思われるときには、先に直接119番(消防局)へ通報していただいてかまいません。そのあとに相談センターへ緊急通報装置の相談ボタンまたは緊急ボタンを押して報告してください。

このときに、脳溢血などで身体を動かしてはいけないときもあるので、消防局や相談センターに確認せずに利用者を動かすことのないようにしてください。

利用者が緊急事態でないときは、設置されている緊急通報装置の相談ボタンまたは緊急ボタンを押して、相手の状況などを相談センターに報告してください。

- ③ 消防局や相談センターは、あなたの通報や報告内容により、必要な救急車や消防車の出動要請や家族等への連絡を行うとともに、利用者に対する必要な援助や処置をあなたに依頼することもありますので、消防局や相談センターの指示に従い行動してください。

- ④ 鍵がなくて、入口や窓等を壊さないと入れない場合は、できるだけ家主・管理人・警察官等の立会いを求めてください。なお、このような場合で、入口等の破損が生じたとしても、協力員へ損害賠償の責任を問わない約束になっています。

- ⑤ 夜間に協力をお願いすることもあります。

- その他

- ① 留守宅の戸締り

病院への搬送などで家が留守になるときは、火元を点検し、戸締り等をお願いすることもあります。

- ② 鍵の保管

利用者の家の鍵の保管を依頼される場合があります。紛失しないように保管してください。